

り襲つた「令和6年能登半島地震」。最大震度7を

記録し、津波や建物の倒壊、火災、液状化など各地で甚大な被害をもたらした。発災から6カ月以上たち、ようやく建物の公費解体が始まつたものの、被災地ではいまだ困難な状況が続いている。

○震災直後から職員を派遣

URといえば、賃貸住宅で知られるが、じつは都市再生をはじめ、業務は多岐にわたる。そして意外に知られていないのが、災害対応支援だ。東日本大震災、熊本地震や糸魚川市大規模火災など、全国各地で起こる災害に直ちに職員を派遣。対応に追われる地元自治体の支援をはじめ、災害対応の経験豊富な職員が仮設住宅建設や市街地整備にあたるなど、被災地に寄り添つた細やかな支援を行つてている。

活できるかを現地で確認。県の担当者と細かい設計調整や業者とのやり取りを行い、設計図が県の定めた基準に沿つているのか確認を行いました。既に前任者が被災地での経験を生かしてシステム的な業務フローなどを整備してくれていたので、すぐに業務に就くことができて助かりました」

朝、拠点としていた金沢のコンビニで食料を買い込み、運転を交代しながら担当地区となつた穴水、七尾へ通う日々。道路は整備されていたとはいえ、渋滞で通常の倍以上の時間を要し、トヨレは自衛隊や市役所設置による仮設。上水も通つていなかつたが「業務に支障はありませんでした」という。

「宿泊しているホテルで朝食をとつていたら、隣のテレビル内に内灘から避難したらしく親子がいらして、テレビ映像を見ながら『頑張ろうね』と話をされていました。それを耳にして、改めて自らの使命



右／珠洲市に完成したプレハブ式の応急仮設住宅。
左／被災した輪島市の朝市通りの周辺を調査するUR職員。

を感じました」と被災地での思いを語る。

○現地に腰を据えて被災地を支援

4月16日、URの支援は新たなステージを迎えた。金沢市内に能登半島地震復興支援室石川事務所を設置。現地に腰を据えての支援活動を始めた。所長の林真也は、福島での原子力災害復興や復興庁への出向など、災害対応への経験も豊富だ。

「今年度内には被災市町さんが復興まちづくり計画を策定。生産の再興や住まいの再建などの具体的な検討に入る予定です。当事務所ではその計画づくりに係わる技術支援を行っています。現在は国土交通省に同行し、被災市町さんとの打合せに参加。市町さんが悩んでおられることへの助言などを行つています」

復興まちづくり計画をつくるうえで、もつとも大切なのが住民の意向だ。URは今までの経験や知見から、住民への意向調査内容や手法、今後、住民意向をいかに復興まちづくり計画や事業に反映させていくか等についてアドバイスを行つてている。

災害対応の経験と知見を生かし能登半島地震の復旧・復興を支援

令和6年能登半島地震における支援

2024年●令和6年～

変わる日本の暮らし「暮らすまち」

阿部民子 text by Tamiko Abe
illustration by Shigeyuki Sakata



現在、URで災害対応を仕切っているのは、災害対応支援部だ。国や県、市町などさまざまに応対。どこで、どんな支援を、どんな形で行うか、職員の派遣はどうするか、といった差配を行つている。

2024年、災害対応支援部長の山下昌宏は、元日から震災対応に追われることになった。「地震が起きてから、それまでの正月気分が一気に吹き飛びました。元日のうちに情報収集を開始、部内の課長と意見交換をしたうえで、2日には派遣職員の検討をスタート。4日に職員がリエゾン（災害対策現地情報連絡員）として国交省北陸地

対応も経験した。「現場での業務がスムーズに進むよう、職員のケアや職場環境を整備。現場とのパイプ役に尽力していく」と話す。

技術監理部の大隈健五は、今回現地に赴いた一人だ。東日本大震災で災害公営住宅の建設に携わった経験を生かし、2月2日から10日間、仮設住宅建設支援にあたつた。

「建設用地が土砂災害警戒区域に入つていいのか、給水や電気、排水が可能かなど、お住まいになる方が生

じで、自分たちどうか、高齢の方も多いのを視点を大事にして、業務にあたりたいと思つています」

「まだまだURが復興支援を行つていただけるよう懸命に努めたい」と林は力を込める。

被災地の復旧から、1日も早い復興へ。

街に、ルネッサンス

* UR 都市機構

[企画制作]新潮社

主な支援は、応急仮設住宅建設や住家の被害認定業務、6月末までに延べ634人の職員を石川県へ派遣、各地で支援にあたつています」

災害対応支援部では、東日本大震災などで災害対応の経験を積んだ職員をリストアップ。いざというときにはオールURで即座に対応できる体制を整えてきた。同時に、現地業務のサポートを担う後方支援も重要な仕事だ。同部で事務方を務める新田裕も、阪神・淡路大震災を中学生のときに経験。宮城県や岩手県で災害

。主